

平成 23 年度熊本県高校生県議会における

# 県政概要説明

熊 本 県

はじめに

高校生議員の皆さん、こんにちは。熊本県知事の蒲島郁夫です。

本県初の開催となります高校生県議会に参加いただき、ありがとうございます。私もこの日を大変楽しみにしておりました。皆さん、議席の座り心地はいかがですか。

この議場は、昭和42年の完成以来、県内各地域の代表である県議会議員の方々と歴代の知事などが、数多くの議論を重ねてきた場所です。そうした歴史ある議場に、本日、未来を担う高校生の皆さん方をお迎えし、熊本県の今や、将来について、共に考え、議論ができることを大変嬉しく思います。

この高校生県議会は、ここにおられる馬場県議会議長の県議会を活性化したい、さらには、若者の夢を県政に生かしたいとの熱い思いから誕生したものです。このような機会を与えていただいた馬場議長をはじめ県議会の皆様に対し感謝申し上げます。

それでは、高校生県議会の開催にあたり、県政運営の概要についてご説明させていただきます。

私は、約3年半前、「3つの困難」を乗り越え、「4つの夢」を実現することを県民の皆様にお約束し、熊本県知事に就任しました。

「3つの困難」とは、「財政再建」「川辺川ダム問題」「水俣病問題」であります。そして、「4つの夢」とは、「稼げる県」「長寿を恐れない社会」「品格あるくまもと」「夢のある教育」の実現であります。

県では、この「3つの困難」の克服と「4つの夢」の実現を県政運営の基本方針として、「くまもとの夢4カ年戦略」に位置づけ、その達成に全力を挙げて取り組んでいます。

## 県政の状況 ～ 3つの困難

### 財政再建

まず私は、一つ目の困難として危機的状況にあった本県の財政再建に着手しました。“隗より始めよ”という中国の故事にならい、最初に自らの月給を大幅にカットすることにしました。そして、県の保有している土地などの売却を行ったり、様々な事業の徹底的な見直しを進めました。

その結果、私の就任時には、県債残高、いわゆる借金が1兆1000億円に迫ろうとしておりましたが、平成24年度末には1兆円を下回る見込みとなっています。また、過去4年間、減り続けていた財政調整用基金、いわゆる県の貯金についても、8億円を積み増すことができました。

## 川辺川ダム問題

二つ目の困難は、川辺川ダム問題であります。

昭和41年に計画された川辺川ダムは、ダム建設か否かをめぐり、40年間の長きに亘り世論を二分してきました。

私は、知事就任から半年間という時間を区切って、しっかりと検討を行い、判断すると県民の皆さんに約束しました。

そして、現地に幾度も足を運び、話を伺っていく中で、地元で暮らす人々にとっては、この川そのものがかけがえのない財産、そして守るべき「宝」なのではないか、そしてこのような「ローカル」な価値観を尊重し、守り抜くことこそ、地域に住む方々の幸福量を増大させるものだ と確信しました。そして、平成20年9月、川辺川ダム計画を白紙撤回し、ダムによらない治水対策を追求すべきとの判断を表明しました。現在、国、県、流域市町村による「ダムによらない治水」の検討を重ねるとともに、水没予定地であった五木村の再生に取り組んでいるところです。

## 水俣病問題

三つ目の困難は、公害の原点とも言われる水俣病問題です。

公式確認から50年以上経過している水俣病ですが、今なお、救済を求める方々が数多くおられます。私は、そのような方々に対し幅広い救済策が講じられるよう、国に対し懸命に働きかけを行い、その結果、平成21年7月、救済法の制定にこぎつけることができました。

現在、この法律のもと、被害者の方々を可能な限り早く、また広く救済できるよう精一杯取り組んでおります。

水俣病の悲惨な経験を二度と繰り返すことのないよう、その教訓を将来にわたり、世界に発信していくことが私たちの使命でもあります。これからも、水俣病被害者の救済と水俣・芦北地域の再生に向け精一杯取り組んでいきます。

## 県政の状況 ～ 4つの夢

次に、「4つの夢」について主な取り組みをご説明します。

### 「稼げる県」（経済上昇くまもと）

まず、「稼げる県」についてです。熊本が豊かになるためには、産業が元気な「稼げる県」にならなければなりません。

私はまず、農業の分野では、全国に先駆け、耕作放棄地の解消に向けた独自の対策を実施することとしました。また、新たな取組みとして、米粉や飼料用米などの生産にも力を入れています。そして、米粉を使ったパンを学校給食に取り入れたり、米を餌とする牛肉や卵のブランド化などを進めています。

全国の知事の中でも、農業に従事した経験を持つ知事は私だけです。今後とも熊本の農業の持つ可能性を大きく拓いていきたいと考えています。

一方で、企業誘致については、平成20年秋のリーマンショックに端を発した世界同時不況により、大変厳しい状況が続いてきました。しかし、既に立地している企業を大事にしていくことで、研究開発部門の誘致や製造部門の増設につなげるなど、大不況下なりに着実に取り組んできました。

また、本年3月には待望の九州新幹線が全線開業しました。現在、“くまモン”が県の営業部長として“熊本の魅力”を関西の企業などに売り込んでいます。さらに、県の宣伝部長であるスザンヌさんと共に観光キャンペーンに奔走するなど、全国から多くの方々に熊本を訪れていただけるよう一生懸命取り組んでおります。

## 長寿を恐れない社会

二つ目は、「長寿を恐れない社会」についてであります。

人々が長寿を恐れるのは、多くの場合、認知症を恐れるからです。そこで、本県は認知症対策に特に力を入れて取り組んでいます。県内の認知症サポーターの数は10万人を超えており、人口割合で二年連続日本一を達成しているほか、「熊本モデル」と呼ばれる認知症診療・相談体制の整備など、全国に先駆けた取組みを進めています。

また、本年中にはドクターヘリの運航を開始し、防災消防ヘリ「ひばり」との連携により救命救急態勢を強化します。

このように、県民の生命と生活を守る取組みをきめ細やかに進めています。

## 品格あるくまもと

三つ目に、県民の皆さまが郷土に誇りと愛着を持てるよう「品格あるくまもと」づくりを進めています。

私は、県民がそろって郷土の価値を再認識し磨き上げることが、熊本の品格を高めることにつながると考えています。熊本には、世界に誇る阿蘇の草原や良質で豊富な地下水、加藤・細川藩が築いた400年の歴史と文化など、誇るべき大変貴重な宝があります。

過去から受け継がれてきたこれらの宝を守り、将来に向けて磨き上げ、熊本

の品格と誇りを高めていきたいと考えています。

### 夢のある教育（人が輝くくまもと）

四番目に、本県では子ども達一人ひとりが夢を持ち、挑戦することができるよう「夢のある教育」に取り組んでいます。

夢を持ち、それに向かって努力することはとても大事なことです。しかし、中には家庭の事情などで、学びたくても学ぶことができない人もいます。そこで私は、“貧困の連鎖を教育によって断ち切る”という強い決意のもと、生活保護世帯から大学へ進学する子どもたちへの支援などに取り組んでいます。

また、県内の22ある私立高校の垣根を外し、結集を図った熊本時習館構想をスタートしています。教育委員会とも連携しながら、海外の大学も視野に入れた進学支援など、多様な進路を提示し、県内の高校生の夢の実現に向けた様々な取組みを進めています。

### 県が目指しているもの

本年3月に九州新幹線が全線開業しました。来年4月には、熊本市が政令指定都市となります。今まさに熊本は、100年に一度とも言えるビッグチャンスの時を迎えています。今後、熊本には、人、モノ、情報が集まることが期待されます。こうした効果を熊本全体に留まらず九州全体に波及させていくことが必要です。そして九州における拠点性をさらに高めることによって、私は、将来的に九州の中心都市、いわゆる“九州の州都”を目指したいと考えています。

最後に、私は職員に対し、「皿を割ろう」と言っています。たくさん皿を洗う人は、たくさん皿を割ります。そのため、たくさん仕事をして皿を割った人を私は誇りに思います。

皆さんも、失敗を恐れず、夢に向かってどんどんチャレンジして欲しいと思います。

本日は、県政に関する様々な角度から質問が用意されているようであり、皆さんからのご質問に対し、私もしっかりとお答えしたいと思います。